

2026年2月6日

# 第64回関西財界セミナー

## 分科会議長報告

# 第1分科会「いのち輝く日本のビジョン～万博を終えて社会実装を考える～」

## 第1セッション論点

- ・万博を契機とした新たな価値観・変化の兆しと、社会、企業にとっての活用方法

## 第2セッション論点

- ・経済的価値を踏まえた「いのち輝く日本のビジョン(ありたい姿)」とは何か
- ・「いのち輝く日本のビジョン(ありたい姿)」の実現に必要な要素(価値観・変化)は何か

## 第3セッション論点

- ・万博後の社会実装に向けた取り組みの共有
- ・新産業・イノベーションの創出に向けた地域戦略と企業・経済人の役割・行動

## 議論の総括

- ・万博は、多様な主体がリアルに集い、いのち・多様性・心の豊かさを尊重する価値観やありたい未来に向けたフィロソフィー、先端技術が生活に溶け込む未来社会の姿を共有した。加えて、万博を成功に導いた自信や誇り、一体感といった関西のシビックプライドを再認識する契機となった。
- ・次世代へと万博レガシーを継承し「誰もが自らの可能性を最大限に發揮できる社会」の実現を関西から主導するために、企業・経済人は、次の役割・行動を担う責務がある。①産官学共創による社会実装の加速、②世界とのネットワークの共有・拡大と活用、③中長期の地域戦略と共に創を推進する中核機能の整備。

# 第2分科会「KANSAIブランド確立に向けたポスト万博における新たな観光とまちづくり」

## 第1セッション論点

- ・投資・人流を呼び込む万博レガシーの継承とKANSAIブランド確立の方向性

## 第2セッション論点

- ・ポスト万博の戦略実現に向けた新たな関西MICEへの取り組み

## 第3セッション論点

- ・観光新時代を支えるまちづくり

## 議論の総括

- ・ポスト万博において、関西に継続的に人流や投資を呼び込み、関西経済の持続的な成長を実現するには、産官学一体で、イノベーション・共創を核としたブランディング戦略を構築・展開し、未来にわたり「選ばれる地域」を目指すべき。そのため、以下3点が必要。
- ・①関西の強みを生かした観光の質的・量的向上、②MICEの戦略的な活用、誘致・創出の加速、持続的な開催、③「都市が産業を育てる」の理念に基づき社会実装を先導するまちづくりを、万博の熱が冷めない今こそ取り組み、国内外への発信が重要。

### 第3分科会 「人口減少を見据えた新しい社会・経済の形」

#### 第1セッション 「人口動態の現状、展望、想定される課題～日本・関西への影響～」

- 社会的課題:公共インフラや生活必需サービスの維持、維持コストの増加
- 経済的課題:労働力不足、国内市場の縮小、エッセンシャル産業の需給ギャップ

#### 第2セッション 「人口減少社会への適応～国・地域がなすべきこと～」

- 国・地域一体となったコンパクト化政策(中長期的視点での予算運営、理解醸成)
- 国:労働力の構成変化に即した環境整備      ➤ 地域:コミュニティ形成

#### 第3セッション 「人口減少社会への適応～企業がなすべきこと～」

- 労働力不足:多様な人材の活躍引出し、AIで高付加価値業務のリソース捻出
  - 国内市場(価格×人数×頻度)の縮小:価格・取引頻度の向上、内外の新市場
- 双方:賃上げ

#### 議論の総括～持続可能な社会・経済の構築に向け、官民共に将来への責任を果たすべき

- コンパクト化政策は、政治的ハードルもあり、進捗が乏しい。国・地域は一体となり、住民に寄り添い対話を重ねたうえで、国土の将来像を明確にせよ。
- 企業には、商品価値と取引頻度の向上が求められる。多様な人材の活躍とAIの活用で付加価値向上に割くリソースを確保すべき。これは、業界・官民全体で協創することが重要で、関西は先行して実現し、「関西モデル」を追求するべき。
- 付加価値向上の鍵は賃上げ。各社が、利益だけを確保しても、我が国の経済は成長しない。人材育成の充実化やAI環境の整備で賃上げの原資を。
- 経営者は、賃金を単なるコストでなく、自社の人的資本や将来の市場が成長するための投資と認識せよ。
- 人口減少を変化のBig chanceと捉え、官民で未来志向の適応策を展開すべき。

# 第4分科会「外国人材の受け入れ・活躍と地域社会との共生を考える」

## 第1セッション論点

- ・受け入れ拡大の現状と今後の見通し
- ・さらなる定着・活躍に向けた課題の整理

## 第2セッション論点

- ・企業に求められるダイバーシティ経営のあり方
- ・外国人材の活躍を支える制度・環境の整備

## 第3セッション論点

- ・帯同家族を含めた日本語教育や生活支援のあり方
- ・地域社会との共生に向けたステークホルダーの役割整理

## 議論の総括

- ・外国人材の受け入れ拡大が必要。単なる人手不足への対応ではなく、事業継続や企業成長に向けた“共創”パートナーとして不可欠な存在。
- ・企業には、ダイバーシティ経営の理念を共有し、国籍に関わらず多様な価値観をもつ人材の定着・活躍を支える基盤づくりが求められる。
- ・共生社会の実現に向けて、国としての明確な方針の下、自治体や支援団体、企業や経済界など多様なステークホルダーの連携により、外国人が孤立することなく、ともに地域社会を支える枠組みづくりが重要となる。

# 第5分科会「AI競争時代を生き抜くために～AI社会における国家・企業の戦略～」

## 第1セッション論点:AIを文房具化せずBPRが必須

- ・経営層のコミットメントとガバナンス構築の遅れ
- ・内製化とデータ活用 - Webにないデータが鍵
- ・AI時代の人材育成とリスキリング等による底上げ

## 第2セッション論点:日本の価値観によるAI差別化戦略

- ・暗黙知の形式知化とデジタル伝承
- ・人間とAIの共生モデル - 役割分担の最適化と日本の協働の再構築
- ・データ主権と技術主権 - 加工貿易型デジタル産業の構築

## 第3セッション論点:明日から何をすべきか

- ・AI導入のパラドックスの解消 - 企業資源としての熟練者とAIネイティブのマッチング
- ・サードプレイスの構築-非競争領域での情報共有
- ・スタートアップと大企業の関係再構築

## 議論の総括

- ・AI導入の条件が同時に揃う稀有な機会を逃さず、経営者自らが大胆な変革を実践する
- ・AIを「道具」でも「敵」でもなく「友達」として捉える日本独自の価値観を製品化する
- ・「暗黙知」を脱神秘化し、日本独自の文化と哲学をAIに組み込む
- ・孤軍奮闘ではなく連合軍として、業界を超えた連携と産学官協働で大逆転を狙う
- ・労働力不足に対し、社会的包摂の視点を持ったAI実装で幸せな未来を創る
- ・業界横断で水平に横串を通す関西AIエコシステムを構築する
- ・多様なAI観の共有と日本型AI哲学を深化させる

## 第1セッション論点 (注:課題認識と問題提起から引用。以下、第2~3セッションも同様)

- ・スポーツの多様な価値、スポーツが果たすべき役割
- ・スポーツを取り巻く社会情勢、今後の可能性

## 第2セッション論点

- ・企業がスポーツ振興に取り組む意義と戦略
- ・スポーツと企業の持続的な関係継続

## 第3セッション論点

- ・次世代の育成はじめ地域のスポーツ振興と企業の関わり
- ・WMGの果たすべき役割

## 議論の総括

- ・スポーツの価値や取り組む意義は、重要性を増している。
- ・企業は持続可能な形で地域の各主体と連携し、あらゆる世代がスポーツに関われる環境づくりに貢献する。
- ・WMGは関西各地で実施され、継続的なスポーツ実施につなげる貴重な機会。産官学で参加を呼び掛け、機運醸成を図る。